

誰もがつながり合える社会に 手話・コミュニケーション 条例を施行



右手を左手の甲に軽く当て、拝むようにすると「ありがとう」。手話も言語です

府内初の「綾部市手話言語の確立及び多様なコミュニケーション手段の促進に関する条例」が、4月1日に施行されました。同条例は、手話が独立した言語と位置付けること▽障害に依じた多様なコミュニケーション手段を促進すること―を基本理念に、市の責務や市民、事業者の役割を明確化しています。誰もが障害の有無にかかわらず互いに尊重し合い、つながり合える社会を実現するため、全市一丸となって取り組みましょう。

障害のある人に 寄り添う施策

同条例の施行に伴い、市は本年度、さまざまな施策を展開。市民に分かりやすく啓発するハンドブックの作成▽音声を取りやすくする卓上型スピーカーを市役所窓口を設置▽講演会等で要約筆記・手話通訳の機会を増加▽聴覚・言語障害者が緊急時にスマートフォン等で素早く簡単に119番通報できるシステムの構築―などを行います。

市の情報配信に工夫

綾部の旬の話題を動画でお知らせする「撮られたあやべ」には、ナレーションだけでなく字幕を付けて配信。誰でも楽しめる工夫をしています。また、本紙の音声版作成を

誰もがいきいきと暮らせるまちに

障害をもって綾部のまちで暮らす人がいることに気付いてほしい、気付けるまちにしたい！多くの願いが込められた同条例のもと、コミュニケーションを諦めない、つながり合える綾部のまちを皆さんと作りあげていきたいと思っています。



条例検討委員会委員
滝野千里さん

私たちにできること

障害のある人に対するコミュニケーション支援の方法はさまざまです。自分ができることを少しでも「やってみよう」という気持ちが大切です。市内では、コミュニケーション支援を学ぶ講座が開かれています。あなたも、伝え合うことの楽しさを学びませんか。



手話奉仕員養成講座 「入門課程」

聴覚障害者の「ことば」である手話を学びます。詳細は、本紙インフォメーション=9面=をご覧ください。

朗読ボランティア チャレンジ講座

視覚障害者に情報を伝える、朗読の基礎を学びます。詳細は、本紙インフォメーション=9面=をご覧ください。

点訳奉仕員養成講座

視覚障害者が指で触って、文字を読み書きするために利用する点字を学びます。開講する場合は、本紙でお知らせします。

要約筆記者養成講座 「前期課程」

聴覚障害者や聞こえにくい人に対して、話の内容を文字にして伝える「要約筆記」を学びます。9月末に開講予定です。



エフエムあやべに委託。視覚障害のある人に配布しているほか、ホームページでも公開しています。さらに本号から、さまざまな障害に配慮し、問い合わせ先として電話番号だけでなく、できる限りファクス番号(☎)も併記します。



▲動画は「撮られたあやべ」で検索

※イラストは、綾部中学校美術部の皆さんに描いていただきました

組織と人事

新体制で市民に寄り添う

市は4月1日、組織の一部改編と人事異動を発令。「住み続けられるまち綾部」の実現に向け組織の機動力を強化し、市民目線でまちづくりを進めます。新体制(課長級以上)は次のとおり。■太字は新任(異動)

企画財政部 部長 ■ 岩本正信
 ▼次長 (財政課長事務取扱) ■ 吉田清人
 ▼秘書広報課長 ■ 野間知亜紀
 ▼企画政策課長 ■ 東勝史
 総務部 部長 ■ 白波瀬清孝
 ▼総務防災室長 (防災課長事務取扱) ■ 高橋一彦
 ▼総務課長 ■ 大槻伸一
 ▼同課主幹 ■ 上田英之
 ▼税務課長 ■ 大槻一郎
 ▼同部付主幹 ■ 高橋ひとみ
 市民環境部 部長 ■ 吉田豊
 ▼市民・国保課長 ■ 芦田正彦
 ▼市民協働課長 ■ 立藤聡
 ▼人権推進課長 ■ 松原哲也
 ▼同課主幹 ■ 立藤江理
 ▼環境保全課長 ■ 森津充好
 ▼同課主幹 ■ 白波瀬巧
 福祉保健部 部長 ■ 大石浩明
 ▼次長 (高齢者支援課長事務

取扱) ■ 諏訪博幸
 ▼民生児童課長 ■ 四方麻美
 ▼同課主幹 (物部保育園長事務取扱) ■ 谷口留美子
 ▼福祉課長 ■ 福田和宏
 ▼高齢者支援課主幹 ■ 婦木しおり
 ▼保健推進課長 ■ 十倉和寿

農林商工部 部長 ■ 上原季司
 ▼商工労政課長 ■ 森本修
 ▼農林課長 ■ 大島順彦
 ▼同課主幹 ■ 小松健
 ▼農業委員会事務局 長 ■ 岸本孝昭

定住交流部 部長 ■ 四方秀一
 ▼定住・地域政策課長 ■ 朝子直樹
 ▼同課主幹 ■ 井上浩豪
 ▼観光交流課長 ■ 四方雅弘
 建設部 部長 ■ 大槻和正
 ▼監理課長 ■ 仲井涉
 ▼建設課長 ■ 四方康尚
 ▼都市計画課長 ■ 四方博
 ▼建築課長 ■ 飯田政利

会計課 会計管理者兼会計課長 ■ 山西やよい

消防本部 消防長 ■ 上原博一
 ▼次長 (予防課長事務取扱) ■ 塩見幸作
 ▼管理課長 ■ 丸岡敦史
 ▼同課主幹 ■ 矢田谷和行
 ▼警防課長兼消防署長 ■ 四方繁行
 ▼警防課主幹兼消防署上林出張所長兼消防署長補佐 ■

山崎正吾

上下水道部 部長 ■ 前田義則
 ▼次長 (下水道課長事務取扱) ■ 柳田嘉宏
 ▼上水道課長 ■ 檀野彰

議会事務局 局長 ■ 梅原正巳
 ▼次長 ■ 飯室誠

教育委員会事務局 教育部 部長 ■ 岡垣美樹
 ▼理事 ■ 小林治

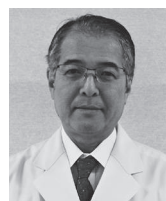
▼参事 ■ 小林直子
 ▼学校教育課長 ■ 村上哲也
 ▼社会教育課長 ■ 塩見勲生
 ▼同課主幹兼資料館長 ■ 三好博喜
 ▼同課主幹 兼天文館長 ■ 大槻直樹
 ▼同課主幹兼図書館長 ■ 生駒彩子
 ▼文化・スポーツ振興課長 ■ 小林敏和
 ▼綾部幼稚園長 ■ 松浦宏美
 ▼八田幼稚園長 ■ 吉田純子

監査委員事務局 局長 ■ 四方恵美子

市立病院 新院長に高升氏

綾部市立病院の院長を9年間務めた鴻巣寛氏が3月末で退職し、名誉院長に就任。

副院長を務めていた高升正彦氏に写真



が4月1日、院長に就任しました。



老年学

老年学とはドイツで新たに生まれた歴史とした学問で、老いることについて心理学や生物学的な見地も取り入れ、広い分野で研究がなされている。その最近の研究によると、この10年間で高齢者の身体能力は11年も若返ったと言う。僭越ながら還暦を迎えた我が身に照らしても、幼少期にイメ

ージしていた「六十の翁」とは心身ともに程遠いというのが正直な気持ち。ちなみにアニメ「サザエさん」に登場する波平さんの想定年齢はいくつかご存じか? ヒントは「時代は昭和で定年は55歳」一波平さん

んは現役サラリーマン」。答えは54歳! 参考までにフネさんは50歳、マスオさん28歳、サザエさん24歳、タラちゃん3歳…。なるほど老年学が唱える11歳の時代の前倒しもうなづけよう。

本市の高齢者比率(65歳以上の割合)は37%。人口減少、少子化と相俟って今後の自治体経営は課題山積だが、実は一瞬にして高齢化率を10ポイント下げる「必殺技」がある。それは「75歳以上」に変えてしま

うこと! ちょっとズルいというのをうけるかもしれないが、老年学の研究成果に沿うものであり、またこれなら瞬時にして実現可能でもある。

要は統計上の規定や数字に惑わされず、実態を見極めて怯えることなく将来と対峙することが肝要かと。病は気からと言うが、時には樂觀的に未来を眺めてみたくなるのは、春の陽気のせいだろうか…。

山崎善也(綾部市長)

綾部市消防団上林分団が発足

綾部市消防団上林分団が4月1日に発足。新しい分団旗の下、地域の安全・安心に向け89人の団員でスタートしました。

中・奥上林の伝統引き継ぎ

市は4月1日、上林分団の発足式を行いました。式典では、白波瀬博之団長が「安全・安心を守るために精進してほしい」と訓示。福井一洋分団



89人の団員が、中・奥上林地域の安全・安心を支えます

長が「中上林、奥上林分団の伝統を引き継ぎ、決意を新たにまい進します」と決意表明しました。

また発足式後は、同分団の本部詰所で新たな分団の看板が除幕されました。この建物



新分団旗を白波瀬団長から受け取る福井分団長(左)



訓示をする白波瀬団長。発足式には約190人が参列

多人数で迅速な対応

は八津合町の上林いきいきセンター敷地内に、新たに整備した。2階が本部詰所、1階が同分団3部1班のポンプ格納庫となっていて、ポンプ車も更新しました。

上林分団は、昭和30年度から活動していた奥上林分団、中上林分団を統合して発足しました。火災や風水害などの災害時には、迅速に対応できる人数が多ければ多いほど力になります。団員数が減少していた両分団の指揮命令系統を統一したことで、多人数の迅速な対応を促進。地域防災力の向上を図りました。

市消防団では平成28年11月に団本部と中上林、奥上林分団本部の16人で「消防団統合準備委員会」を立ち上げ、協議を重ねていました。

消防団応援の店100店舗 防火防災協会100事業所

市消防団応援の店の登録店と市防火防災協会の会員事業所がいずれも100件を突破しました。

地域の安全・安心の力に

「消防団応援の店」は平成29年4月に45店舗でスタート。各店舗の厚意により団員に対して一定の特典を提供する制度です。地域の安全・安心を守る消防団を、地域を挙げて応援しようという趣旨に多くの賛同をいただいています。登録店は市ホームページでご確認ください。

市内の事業所、団体でつくる「市防火防災協会（会長、



記念交付式・報告会には消防団関係者も参加

新規登録、入会を募集中

市は3月26日、応援の店100店舗記念交付式と防火防災協会100事業所達成報告会を開催しました。山崎市長から応援の店100店舗目となったうずらや（下八田町）に表示証とのぼりを交付。防火防災協会の塩田会長から宝住寺（味方町）へ100件目の記念証が手渡されました。いずれも登録・入会を募集中です。詳しくは消防本部☎

(42)0119、☎(43)1483へ。



浸水被害の軽減へ — 排水ポンプ車を導入

市は3月29日、集中豪雨等に伴う浸水被害の軽減に向け、初めて導入した排水ポンプ車を市役所で関係者に披露しました＝写真。内水による浸水被害が想定される際には現地へ駆け付け、河川へ緊急排水します。取得金額は3,645万円。排水能力は毎分30立方メートルで、25メートルプールの水（約300立方メートル）を10分程度で排出できます。

綾部ICの施設案内サインが リニューアル

府が市とともに進めてきた舞鶴若狭自動車道の綾部インターチェンジ（以下、IC）出口の公共施設案内サインのリニューアルがこのほど完了しました。従来、施設ごとに設置され、視認性の悪かった案内サインを統合し、観光客やビジネス客へのサービス向上に貢献しようとするもの。これで、市内3つのIC（綾部、京丹波わち、綾部安国寺）出口での案内サインの整備が完了しました。



農業で女性が活躍できる場を — 農夢が表彰

みず菜を主力作物とする株式会社農夢（四方勝一代表取締役）が、日本農業法人協会による「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」に選ばれ、3月13日、市役所で山崎善也市長に報告しました。同社は女性従業員が多いことから、家庭の都合に合わせた勤務体制の整備や農場への水洗トイレ設置など、さまざまな労働環境の改善策を実施。女性の活躍を推進していることが評価されました。

FMいかるが開局20周年

府内3番目のコミュニティ放送局として開局した「FMいかる」がこのほど、20周年を迎えました。同局は多くの市民が番組に参加する、地域に根差した放送を実践。近畿コミュニティ放送賞での最優秀賞受賞をはじめ、近年では映像制作にも注力。その取り組みは高く評価されています。今後も、地域密着の情報を届け、市民に愛される放送局を目指します。

